

第八五五回 学内演奏

能 楽

二〇二五年十二月一六日(火)十時四十五分から  
音楽館演奏ホール

一、 解説

能楽概論

小鼓とは

大鼓とは

能楽囃子の特徴

二、 実演

「次第」

三、 解説

カケ声とは

謡とは

四、 体験

謡「高砂待謡」

五、 実演

能楽「屋島」

六、 体験

小鼓と大鼓

七、 質問感想コーナー

謡・・・藤井 丈雄

小鼓・・・成田 奏

大鼓・・・谷口 正寿

藤井 丈雄 (ふじい たけお)

昭和50年11月19日生まれ。神戸市在住。

親世流シテ方能楽師 同・藤井完治の長男。

3歳にて、仕舞「老松」で初舞台。以後、子方にて活動。

平成11年よりシテ方となる。

成田 奏 (なりた そう)

幸流小鼓方職分

人間国宝 故曾和博朗師 及び、正博師 及び、父成田達志に師事

大阪能楽養成会 所属

《略歴》

平成8年7月17日

神戸市に生れる

平成14年

曾和正博師に入門(6歳)

平成18年

独調『田村』にて初舞台(10歳)

平成25年

高校3年生にて小鼓方への道をこころざし、大阪能楽養成会入会(18歳)

平成27年

玄人として初めて、能『菊慈童』に出演

## 谷口 正壽（たにぐち まさとし）

能楽石井流大鼓方（のうがくいしいりゅうおおつづみかた）

重要無形文化財「能楽」総合指定保持者

故谷口正喜に師事

本名 成田有辞（なりたゆうじ）

生年月日 昭和43年12月20日生まれ

所属団体 公益社団法人 能楽協会、一般社団法人 京都能楽離子方同明会、京都能楽会、

一般社団法人 日本能楽会、京都創生座

小鼓を愛好していた祖母の影響を受け、幼少の頃より能に親しみ、昭和54年（10歳）に石井流大鼓方宗家代理の谷口正喜に入門。昭和55年（11歳）に「百萬」で初舞台。以後「石橋」「猩々乱」「道成寺」等の大曲を披く。平成6年に修行時代の仲間らと心味の会を結成。平成9年に谷口正喜の芸養子となり谷口有辞と名乗る。

能楽のみならず、他ジャンルとの共演にも挑戦し、長唄、地歌等と能楽をコラボレートする京都創生座に参加。以後、中核メンバーとして「俱利伽羅忠度」「四神記」「舞扇要結縁」等に出演すると共に脚本の一部を手がける等、能楽の新たな可能性を探る。また、小中学生に能楽離子の手ほどきをする「こども能楽離子教室」や、学校での能楽離子公演「離子堂」など、京都能楽離子方同明会での活動を通じ、次世代への能楽普及に努める。平成23年に谷口正壽に改名。

平成27年4月より大阪音楽大学非常勤講師。

### 《主な芸歴》

昭和54年4月4日	石井流大鼓方宗家代理谷口正喜に入門	
昭和55年5月28日	初舞台「百万」	谷口喜代三師三回忌追善三寿会 京都観世会館
昭和60年11月12日	初能「羽衣」	神戸学生鑑賞能 湊川神社神能殿
昭和61年2月	同和会（現 京都能楽離子方同明会）入会	
平成元年4月	能楽協会、京都能楽会入会	
平成3年11月23日	「石橋」披き	曾和鼓堂・脩吉五十回忌追善会 京都観世会館
平成4年11月8日	「猩々乱」披き	奈良工芸フェスティバル'92 ならまちセンター
平成5年9月4日	「道成寺」披き	曾和一門会 京都観世会館
平成6年5月15日	「望月」披き	藤井久雄米寿祝藤井定期能別会 湊川神社神能殿
平成7年12月14日	在京都の若手能楽師らと心味の会を結成	
平成9年1月1日	谷口正喜の芸養子となり谷口有辞に改名	
平成19年12月	京都創生座に参加	
平成23年1月1日	谷口正壽に改名	
平成23年9月1日	日本能楽会入会（重要無形文化財総合指定認定）	